

項目	意見番号	委員意見		対応（案）
資料4-3 ユーザーの視点における課題と施策の方向性（案）	1	多田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷主の視点で重要なのは「リードタイムの短縮」「サプライチェーンの情報化」「港湾間の連携」の3点である。</li> <li>最近、北関東の荷主が協力し、茨城港（常陸那珂港区）と京浜港を結ぶ航路の誘致を目指すなど、災害時やオリンピック時にも対応した取組を行っている。</li> <li>物流は競争する領域から協調する領域へ変わりつつあり、いかに貨物を集めるか、港湾間の連携が重要になる。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、「サプライチェーンの情報化」や「港湾間の連携」について記述する
	2	松川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーンの融通は可能であり、進めるべきである。</li> <li>一方で、クレーンの運転手などの労務の融通は、現在は困難である。</li> </ul>	今後、各ターミナルの連携強化に向けて、現状等を踏まえ検討していく
	3	中井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>船社としても、ターミナルの一体利用を進めるべきである。</li> <li>現状はターミナルが一体になっていないため、ふ頭内で一度ゲートを出て貨物の横持ちを行っている状況。</li> <li>天候や滞船により運航スケジュールが遅れることがあり、こうしたイレギュラーな事態にも対応できるような施設にすることが重要である。</li> <li>ターミナル間のフェンスを取り払い、一体利用を行うことで、利便性は向上していくと期待している。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、重要度の高い項目として対応していく
	4	中井委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>船社にとっては、荷主が使いやすい港であることが重要である。</li> <li>リードタイムの短縮や、バンプール・インランドデポの活用などが重要である。</li> <li>貨物の動きと情報が連動することが重要である。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、重要度の高い項目として対応していく
	5	松川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>シャーシの共同利用は自然発生的には進まないと考える。都が強いイニシアチブを取ってほしい。</li> </ul>	今後、先行する他港の事例等を踏まえ検討していく

## 第2回検討部会の主な委員意見と対応（案）

項目	意見番号	委員意見		対応（案）
資料5-1 取りまとめの 方向性 (素案)	6	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• GDPとの相関により貨物量推計を実施すること自体は良い。</li> <li>• 一方、推計の前提となるGDP予測が不確実であることに留意する必要がある。</li> <li>• GDPの実績が予測から乖離した際など、適宜見直しを行うことが重要である。</li> <li>• 情勢変化に柔軟に対応していく旨を、長期構想にしっかり書き込んだ方が良い。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、情勢の変化に柔軟に対応していくことを記述していく
	7	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2020年時点で、取扱貨物量に対し施設能力が不足していることを強調すべき。</li> <li>• 施設能力が不足していることにより、ゲート前の交通混雑などの問題が発生している。</li> <li>• 新規整備や効率化により、施設能力を向上させることの必要性を強調した方が良い。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
	8	柴崎委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RCEPの進展等によりGDPが上乘せされることもあるので、それを貨物量推計に取り入れても良いのでは。</li> </ul>	今後の検討の参考にしていく
資料5-2 東京港の 機能強化 (案)	9	松川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存ふ頭でこそ、ターミナルの一体利用の効果が発揮できるのではないかと。</li> <li>• 現状において縦割りになっている個別ターミナルを一体化すれば、ターミナル全体の効率性を高めることができる。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、重要度の高い項目として対応していく
	10	水庭委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鉄道ターミナルとコンテナターミナルを近づけるなど、鉄道貨物ターミナルとの連携の強化を検討しても良いのでは。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
	11	吉江委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>• TOSの一体運用と記載があるが、デジタルツインを進めるためには、ソフトウェアを一体化するのではなく、TOSを介した入出力データを共有することによるデータ連携の方が現実的である。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、データの共有について記述する

## 第2回検討部会の主な委員意見と対応（案）

項目	意見番号	委員意見	対応（案）
資料5-1 取りまとめの 方向性 (素案)	12	吉江委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲートの共有化は有効と考える。</li> <li>シミュレーションを実施したところ、OUTゲートの共有化により、ターミナル内の混雑が解消することもある。</li> <li>ターミナルの一体利用に向けて、シミュレーションの結果を見ながら、関係者で具体的なアイデアを出し合い、議論を重ねられるような場があると良い。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、重要度の高い項目として対応していく
	13	松川委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜港の南本牧MC-1~4で、今春よりターミナルの一体利用が開始される。</li> <li>東京港でも、ターミナルの一体利用について議論するには良いタイミングである。</li> <li>新規ふ頭整備の際には、自動化ターミナルにするいいチャンスである。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
資料5-2	14	柴崎委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>近年のトレンドとして、グリーンフィールド（新規整備）におけるコンテナターミナル整備は、自動化の導入が標準である。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
東京港の 機能強化 (案)	15	柴崎委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>資料5-1について、全ての施策が同じトーンで記載されている。取組内容にメリハリがあっても良い。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
	16	中村委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>長期構想の取りまとめ方として、港の位置付けを冒頭で記述したほうが良い。</li> <li>様々な検討項目があるが、バランスの取れた打ち出しができるとう良い。</li> </ul>	全体の取りまとめにおいて、記述に留意していく
	17	中井委員 <ul style="list-style-type: none"> <li>東京港の背後圏について、首都圏だけでなく、北海道の太平洋側まで拡大しても良いのではないかと。東京港の集貨対象範囲を明らかにすべきである。</li> </ul>	集貨対象の拡大について検討していく